

神奈川施保連ニュースVOL. 65

発行人 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会会長 岩本邦雄
編集同上 広報部会HP: <http://w01.tp1.jp/~a368318200/>
発行所 同上 事務局 〒235-0021 横浜市磯子区岡村3-15-14 岩本邦雄方
TEL&FAX 045-751-1010



第十一回

全施連全国大会in神奈川開催

神奈川施保連が担当し、第11回全施連主催全国大会を横浜中華街のローズホテルで10月20日（火）～21（水）日で開催しました。

大会のテーマは「知的障害のある人にとって最適な生活の場とは」です。大会当日は天候にも恵まれ、全国各地から約570名の参加者が集い、おおいに盛り上がった大会となりました。

開会式

◆全施連副理事兼神奈川施保連会長・岩本邦雄の開会宣言
◆全施連・由岐透理事長の主催者挨拶

◆神奈川県副知事・吉川伸治様、横浜市副市長・柏崎誠様、公益財団法人日本知的障害者福祉協会会長・橘文也様からご祝辞を賜りました。

情勢報告

◆全施連由岐透理事長から報告がありました。

講演

「知的障害のある人にとっての安心できる生活とは」
「障害者権利条約をベースに新たな社会づくりを」

特定非営利活動法人日本障害者協議会代表・藤井克徳様

から講演を頂きました。

全員参加による意見交換会

次により行われました。なお、大会当日の発表者(10名)および会場からの指名発言者(6名)は、全国から予め意見を寄せていただいた参加者の中から選ばれました。

司会

全施連副理事長 南 守

コメンテーター

北九州市立大学文学部教授 小賀 久氏

埼玉大学教育学部准教授 宗澤 忠雄氏

近江ふるさと会理事総括園長 飯田 雅子氏

神奈川施保連副会長 嶋田 芳樹

神奈川施保連副会長 嶋田 芳樹

第1部 (20日)

「テーマ1..知的障害のある人たちの、障害の多様性さらにはライフステージに応じた「充実した日々の生活に必要な支援」とは、どのようにあるべきか」

神奈川施保連からは西脇さんが意見を発表し、指名発言者は水谷さんが担当しました。

第2部 (21日)

「テーマ2..知的障害のある人たちの、障害の多様性さらにはライフステージに応じた「最適な生活の場」とは、どのようにあるべきか」

神奈川施保連からは佐々木さんが意見発表を行いました。

この意見交換については、事前にコメンテーターおよび発表者等の綿密な打ち合わせなどをを行った結果、スムーズに運営されました。



閉会式

◆大会決議が採択されました。

◆次回大会開催県の福岡県連に神奈川施保連から全施連団旗が手渡されました。

暮らしのイメージを膨らませる

津久井やまゆり園 大月和真

私は昨年10月頃から本大会の準備に関わらせていただき、この度は色々とお勉強させていただきました。

当初は、全員参加型意見交換という方式に半信半疑でした。最大の理由は、本当に意見が出てくるのだろうかということでしたが、それは全くの杞憂でした。

大会記録を作成してみても、改めて家族の想いが様々な形で表明されていること、やはり発言するということもあつたのでしょうか、皆さんが前向きに物事を捉えておられました。一言でいえば、子供達に良い暮らしをさせるためには、家族が発言しなければいけないと言いうことです。

そしてそのためには、私達が暮らしのイメージを豊かにする必要があります。あると言いうことです。



また、コメントーターもその家族の想いを受け止め、より次元の高い課題提起に止揚され、大会の品位を高めていただきました。

岩本会長が言っておられた、これまでの10年の蓄積を、次の10年に繋ぐ大会にできたのではないかと思えます。

大会に参加して思うこと

やまぼと学園 水谷 孜

ここ数年、毎年大会に参加しているが、虚しさの募ることが多かった。

今回、神奈川県での大会になり、大会の運営に様々な趣向を凝らし、今までと違ったイメージを引き出そうとした狙いは、成功したのではないだろうか。

大きな問題は、全施連の考え方が、福祉の理想

や決められた法に対する現実的対処に、大きなない離れを認めざるを得なくなっていると思われるにもかかわらず、その考え方を変えていないように見受けられる、ということです。

特に、厚労省の福祉政策とは、目指す方向が逆ではないかということ、懸念せざるを得ないので

す。具体的には、現実的対処に主眼をおいた運動が、全国的に展開する方向に転身してほしいということです。

国の福祉政策の展開について懸念される中で転身しなければ、全施連だけでなく、神奈川県保連でも、支持する家族会等が減少する懸念があることを、肝に銘じていくべきであると痛感しています。

ほろ苦くそして忘れられない大会でした

すぎな家族の会・嶋田芳樹

今回の大会での「全員参加の意見交換」は、2つのテーマを設定し、大会参加者から事前に「意見要旨」の提出を求めて、

その中から大会当日の発表者と会場からの指名発言者を選ぶ、という新しい方式を採りました。

この「意見要旨」がどの程度集まるか心配でしたが、結果としては33件もの応募がありました。

その全てを「資料冊子」として収録・配布しようというところで編集作業を開始。

数十時間をかけて、誤字・脱字の修正や体裁の統一などを行い、ようやく印刷原稿を作り上げました。

ところが、もう一度チェックしようとして、数日後にファイルをクリックしたところ中は全くの空白。

どこを探しても印刷原稿が見当たらない。どうも前回保存するときに操作を間違っただけらしい。

一瞬間の中も真っ白。自分の不注意に悪態をつきながら、再びゼロからの編集作業を開始。

どうやら印刷発注に間に合わせる事ができ、大会参加者に配布した「資料冊子」が出来上がった次第です。

というところで今回の大会は、ほろ苦くそして忘れられない思い出の大会になりました。